

## 地域・担い手サポートセンター



J A駐車ビルに掲げられた地域・担い手サポートセンターの垂れ幕

# 支援体制を強化

## 独立部署専任18人へ増

A  
グループ山形

J Aグループ山形は、4月1日から地域・担い手サポートセンターの体制と機能を一段と強化する。これまでのJ A山形中央会農業農政部から独立させ、事務所をJ Aビル1階に移転。後方支援中心から担い手に出向く活動に重点を移し、専任の職員18人が訪問活動や担い手確保、産地づくりに向けた提案活動などを展開していく。

## 現場に出向き積極提案

同センターは2015年10月1日に設置した。中央会農業農政部職員の他、J A全農山形、J A共済連山形、農林中央金庫山形支店からの出向職員を含め、計15人体制で地域・担い手のサポート

業務に当たってきた。業務や労務、税務、会計から経営計画策定、リスク対応、経営サポートなどに関する相談対応は16年度だけで360件を超過(24日現在)、相談窓口機能と体制の強化が課題となっていた。

このため、17年度は①J Aと調整の上、J A職員にセンター職員が同行、またはセンター職員単独による担い手への訪問活動②経営サポートを

係の下で、技術や経営基盤の継承、担い手の確保や産地づくりの提案により重点を置く。職員も18人に増強し、全員を専任とする。年度内に、さらに増員する計画だ。J Aビル隣の駐車ビルには、18年にデビューする県産米新品種「雪若丸」とともに「協同の力で地域の農業振興と担い手をサポート! 農業経営のご相談はJ Aグループへ」の垂れ幕が掲げられた。新たな取り組みをアピールしている。